

第1学年D組 社会科授業案

場 所 1 D 教室
授業者 安井 文一

1 単 元 東南アジアのバッテリーの行く末（社会を創る）

2 単元の構想

(1) 本単元で目ざす子どもの姿

東南アジアの新・新興国としてラオスが注目されていることを知った子どもは、その現状を追究する。日本企業の進出が、経済成長を支えるのではなくラオスという国を滅ぼしかねないことを知り、ラオスと日本の関わりはどうあるべきなのか取材し始める。そして、更なる発展を続けるラオスへの日本の理想的な関わり方や持続可能な開発に迫り、アジアに生きる未来の自分のあり方を考えていく

(2) 本単元で伸ばしたい力

前単元「植物工場が動き出す」では、植物工場の現状を正確に捉え、高齢化が進む日本の農業に变革をもたらしている中で、工場野菜と露地野菜との共存という新たな農業のあり方を考えた。個の追究で得た植物工場に関する資料や、インターネットや書籍の情報をとおして得た事実や知識から、自分と仲間の思いや考えとの共通点や相違点を把握することで、情報のもつ意味を捉える力を育むことができた。

本単元では、急速に経済成長するラオスに注目した日本企業の進出によって、東南アジアにおけるラオスの立場が大きく変化しようとしている実態を追究する。ラオス国内の様子や現状について集めたさまざまな情報を出し合い、比較し、吟味する中で解決すべき問題を見いだす力を育む。また、日本の開発によるラオスへの経済的影響や人々の生活の変化に対する経済学者の思いや企業、官公庁の狙いについて考える。そこで得た情報を多面的・多角的に考察し、偏った見方をせずに、問題の解決に向けて事実を見定めることで、事実を正確に捉え、公正に判断する力を育んでいく。

(3) はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

見つめる段階では、日本企業の進出により急速に経済成長しているラオスについて考える。森の国とも呼ばれ、森林が70%を占めるラオス国内の映像や国内を走る日本製の電気三輪自動車に関する新聞記事を提示し、人々の生活が大きく変わろうとしていることを捉えることができるようにする。子どもは、自然あふれる山間部を最新の電気三輪自動車が行く姿に違和感を抱くとともに、開発の速さに驚きを感じる。子どもは、急速に成長し始めているラオスの現状はどうなっているのか知りたいたと考え、追究を始める。

向き合う段階では、ラオスの現状について追究していく。ラオスに進出している日本企業や開発の狙いなど、具体的に現状を明らかにしたところで意見交流を行う。メコン川をもとにした水力発電による余剰電力の売電で利益を得ながらも、日本企業の進出に対する電力使用を促進することによって生じたタイなどの隣国との問題を考え始める。更に、電気料金や賃金の安さに着目した日本企業の進出がラオスを豊かにするのではなく、隣国との関係を歪めさせ、国そのものを危うくしていることを捉える。そして、ラオスに対する日本の関わりはどうあるべきか、その行方に迫りたいと考え、経済学者、企業、官公庁、現地の人々やラオス人に取材をし始める。

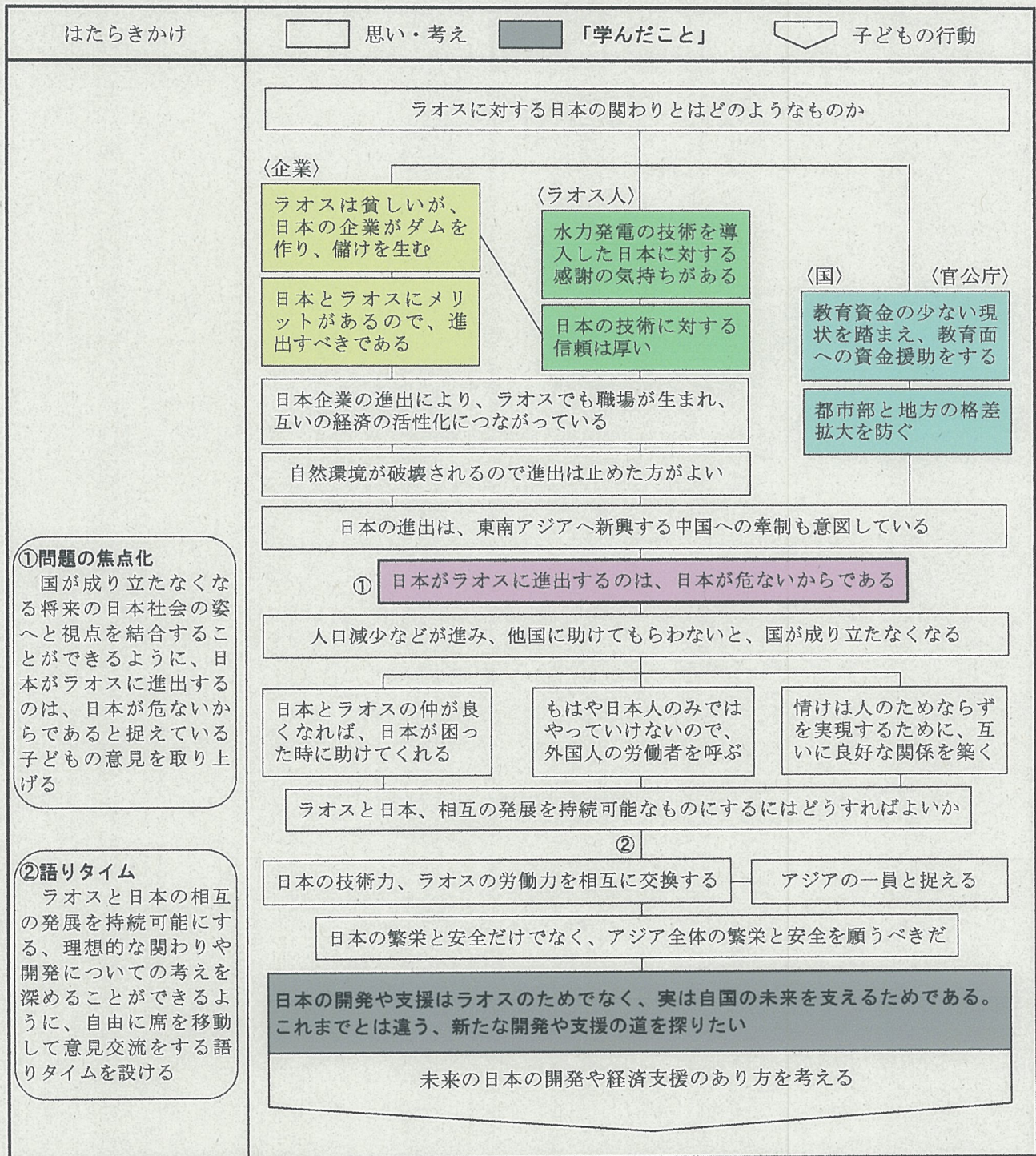
迫る段階では、学校や図書館建設、不発弾処理、ダム建設などを含めた日本政府による多額の支援、低賃金で雇用可能な労働力を求める企業の狙い、日本の技術を信頼しているラオス人の思いや願いを捉える。更に、人口減少などにより、今後は外国人の受け入れなくして、日本人のみでは国が成り立たなくなる可能性があり、ラオスのためだけではなく、実は自国のための支援や開発でもある事実を実感する。子どもは、それらを意見交流の中で関わらせることで、途上国に対するこれまでの日本の開発や支援を振り返り、日本の開発によるラオスの成長を多面的・多角的に捉える。そして、更なる経済成長が予想されるラオスの発展をとおして、この先のラオスと日本との理想的な関わり方や持続可能な開発の姿を見いだしたいと考え、未来の日本の開発や経済支援のあり方を考え始める。

つなげる段階では、未来のラオスと日本のあり方を捉えた子どもに、東南アジアの成長がもたらす未来から見える自分の姿を考える時間を設ける。これまでの追究や取材、仲間との意見交流をもとに、ラオスの発展によってもたらされるアジアの姿を捉えた子どもは、アジアの一員として生きる、未来における自分の姿を思い描き、自分にできることや自分と社会とのつながり考え続けていく。

3 本時の構想 (12/15)

隣国との関係を危うくしているラオスに対する日本の関わりについて明らかにしたいと考えた子どもは、経済学者や企業、官公庁、現地の日本人やラオス人への取材を行ってきた。

本時では、まず企業の進出や狙いに着目している子どもから意見交流を始める。日本のダム建設がラオスに水力発電による儲けを生み出したこと、タイのような技術者をラオスでも育てようとしていることが出される。そして、現地のラオス人の思いについて追究した子どもの考えをつなげることで、ラオスの開発を進めた日本人に対して、ラオス人は感謝の念を抱き、日本の技術を信頼していることがわかるであろう。さらに、国や官公庁の動きについての考えをつなげ、ラオスへの教育支援を進めていること、ラオスの都市部と地方の格差拡大を防ごうとしていることや中国への牽制を意図した日本の進出に注目させる。そこで、日本がラオスに進出する理由は、日本が危ないからであると捉えている子どもの考えを取り上げる。それにより、他国に助けてもらわないと、国が成り立たなくなる将来の日本社会の姿へと視点を結合し、問題を焦点化する。そして、自分たちの生きる日本の未来を支える、ラオスと日本の理想的な関わり方や持続可能な開発の姿を明らかにしたいと考え、新たな開発や支援のあり方を思い描き始める。



4 単元構想表 (15時間完了)

段階	主なはたらきかけ	<input type="checkbox"/> 思い・考え <input checked="" type="checkbox"/> 「学んだこと」 <input type="checkbox"/> 子どもの行動	社会科で重視する力
見つけめる	<p>○知的好奇心の喚起 世界中で注目を集めている東南アジアの新興国の一つであるラオスの様子に気づくことができよう。このように、ラオス国内の映像や新聞記事を提示する</p>	<p>東南アジアは急速な成長市場として、世界から注目されている</p> <p>債務不履行となったEUやギリシャなど、国際情勢は不安定だ</p> <p>ラオスに電気三輪自動車走り始めているのはなぜか 1～2時</p> <p>トックトックという観光客の移動手段だ 日本の技術で二酸化炭素排出量を減らす 大気汚染や渋滞が社会問題になっている</p> <p>急速な経済成長に注目した日本企業が進出し始めている。現在、大きく変わろうとしているラオスとは一体どんな国なのだろうか</p>	<p>☆情報をつなぎ合わせ、問題を見いだす力</p> <ul style="list-style-type: none"> ラオス国内の様子や現状についてさまざまな情報を吟味する中で、自分たちが解決すべき問題を見いだす
向き合う	<p>○掲示による関わり ラオスの現状に関する仲間の思いや考えとつなぎ合わせることができるように、追究内容を掲示する</p>	<p>ラオスの現状について調べる 3～6時</p> <p>Nikonなどの日本企業が進出し、電気を大量に消費している 水力発電による余剰電力を隣国へ売ることによって収入を得ている 日本はメコン流域に今後3年間で7500億円規模の支援をする</p> <p>日本のダム建設による環境悪化から、国民の反発が高い 日本の支援や企業進出がラオスとタイとの関係を壊している ラオス図書館支援によって、現地の子どもの教育を支える</p> <p>余剰電力に目をつけた日本企業の進出は、ラオスを危うくする。ラオスに対する日本の関わりはどうか考えなければならない</p> <p>経済学者、企業、官公庁、ラオス人への取材活動を行う 7～12時 (本時12)</p>	<p>☆情報のもつ意味を捉える力</p> <ul style="list-style-type: none"> ラオスに関する資料や情報収集をとおして得た事実や知識から、自分と仲間の思いや考えとの共通点や相違点を把握する
迫る	<p>○取材による人との出会い 日本の開発がもたらすラオスへの悪影響やラオスの抱える経済問題に関する経済学者の考えや、企業や官公庁の狙いや政策に迫ることができるように、取材を促す</p>	<p>山間部の環境破壊が進むので、企業進出は止めるべきだ ラオスと日本の二国間で利益を得ることができる 教育支援や不発弾処理活動を進め、ラオス人の生活を支える</p> <p>日本人は人手をラオスに求め、ラオスは職場を日本に求める 日本がラオスに進出する理由は、日本が危ないからである ダム建設など日本の技術に対するラオス人の信頼は厚い</p> <p>日本の開発や支援はラオスのためではなく、実は自国の未来を支えるためである。これまでとは違う、新たな開発や支援の道を探りたい</p> <p>未来の日本の開発や経済支援のあり方を考える 13～15時</p>	<p>☆事実を正確に捉え公正に判断する力</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の開発によるラオスへの経済的影響や国民の生活の変化に対する経済学者の思いや企業、官公庁の政策について得た情報を多面的・多角的に考察し、集めた情報の真意を見極め、自分の追究の方向性を見定める
つなげる	<p>○問題の焦点化 多様な側面や広い視野で考えることができるように、追究や取材から構築したラオスと日本の関わりについての考えや思いを、意見交流する時間を設ける</p>	<p>東南アジア全体の発展を願った開発や支援を進めるべきだ 技術力を生かし、持続可能な社会を想定した協力をしていく 外国人労働者や貿易など、日本とアジアの関わりは深くなる</p> <p>この先のラオスと日本のあり方が見えてきた。アジアと日本の未来を支えるために、自分にできることを考えていきたい</p> <p>アジアに生きる一員として、未来における自分の姿を考える</p> <p>新興国に対する、これまでの日本の支援を改めて考える ラオスを含めた東南アジア諸国の情勢に関心をもち、知る</p>	<p>☆意見の関わりを想定する力</p> <ul style="list-style-type: none"> 追究まとめや付箋をとおして仲間の追究内容や考えを知る中で、ラオスと日本の今後の関わりについての意見交流において、どの仲間に関わって考えを深めていこうかと想定する